

江戸時代～明治の郷土が浮彫りに ——新たに所蔵となった古文書など——

昨年度から今年度にかけて、新たに21件の古文書が収蔵されました。そのうちの15件は寄託から寄贈へ切替わったもので、大半はすでに閲覧可能となっていました。改めてそれらの内容を紹介します。また、複写で収蔵した2件は新たに見出されたものです。

江戸時代の鮮魚商を知る

新潟町大助買片桐家文書

「大助買」は江戸時代の鮮魚問屋のことで、現在の中央区本町通11番町にあり、問屋片桐家を中心に小売業者仲間が集住して鮮魚商活動の拠点でした。その状況を知る文書をはじめ、代々熱心な真宗門徒であったことがうかがえる文書も多く含まれています。総数771点、内容は江戸時代前期から大正期に及びます。閲覧は写真複写版をご利用ください。
(請求記号:CE1015)

蒲原平野の大地主の成長と経営を知る

北蒲原郡濁川新田真島家自家経営文書

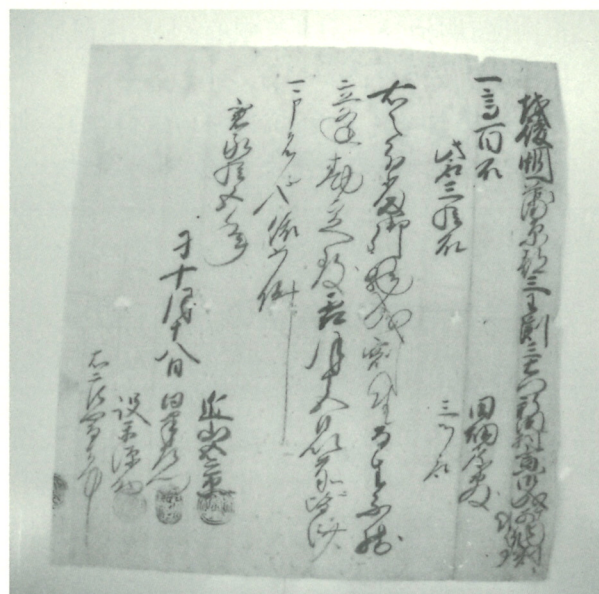
明治期の新潟県には所有地が1000町歩(1000ヘクタール弱)を超える「千町歩地主」数家を頂点に、多くの地主層が各地に展開して地域経済活動の推進力となっていました。彼らの多くは江戸時代からの成長の歴史を持っており、真島家では元禄15年(1702)までさかのぼることができます。

従来は土地の集積過程とその経営展開が専ら注目されてきましたが、さらに広い視野での研究が期待されます。

総数5150点、当館には別に1262点の同家文書があります。
(請求記号:E1014)

江戸時代の年貢割付状が 200年分そろっている

西蒲原郡三王淵村庄屋田野家文書



西蒲原郡三王淵村庄屋田野家文書
寛永15年年貢割付状(田野家文書)

三王淵村は現在燕市の一地区で、立村は江戸時代以前かと思われます。古文書は寛永15年(1638)から明治中期まで約500点伝わっています。そのうちの半数近くが年貢割付状で、特に慶安2年(1649)から明治まで通して村上藩領だった時期のものがほぼそろって伝わっていることは、他にほとんど例を見ない大きな特徴です。
(請求記号:E1012)

散逸しかけた各地文書を丹念に収集

越後国各地及び佐渡国坊ヶ崎村 近世近代文書

いずれも江戸時代後期から明治時代にかけての文書が中心となっています。

- 1) 西頸城郡仙納村・空熊新田文書、現糸魚川市。空熊新田は約30年前に廃村となっています。8件。
- 2) 東頸城郡小池村文書、現十日町市。数家分が混在しているもよう。郡内北部で刈羽郡に近い豪雪地帯の中山間地。112件。
- 3) 東頸城郡清水村私家文書、現十日町市。郡内北部で刈羽郡に近い豪雪地帯の中山間地。61件。
- 4) 西蒲原郡熊ノ森村私家文書、現燕市。82件。信濃川・大河津分水の分岐点に近い川沿いの農村。明治15年改正地券20人分198枚を含みます。
- 5) 西蒲原郡味方村ほか戸長役場文書、現新潟市南区。明治18～21年を中心とした西蒲原郡役所との往復文書。314件。
- 6) 佐渡国坊ヶ崎村文書、現佐渡市。両津湾に面した内海府地域の名主文書の一部。35件。

(請求記号:E1006)

頸城平野南部農村生活の一例を知る

中頸城郡五日市村小林家文書

現妙高市。村の地籍は南葉山の斜面と矢代川左岸に分かれてあり、耕地と集落は後者に立地しています。約100点の大半が江戸時代中～後期の質地証文で、村内での貸借のほかは下流数キロの村々とのかわりが読み取れます。

(請求記号:E1010)

数は少ないけれど歴史を知る手がかり

北魚沼郡須川村近世近代文書

現魚沼市。破間川左岸の段丘上に立地して、県内指折りの豪雪地帯です。総数7点、宝暦6年(1756)新田検地帳を最古に、江戸時代の年貢米高帳、明治10年頼母子取り決め書、村中規定書、明治14年改正地券写し帳など一見ばらばら

のようですが、例外なく近隣他村と同じ歴史を歩んでいることが分かります。(請求記号:E1008)

大正から昭和戦後へ 60年間書き続けた日記

新潟市坂井清衛氏個人日記

坂井氏は新潟市内中心部で米穀小売商を長く営んだ人。大正6年(1917)、16歳から書き始めて昭和52年(1977)秋病床にあって中断するまで毎日欠かさず書き続けました。途中昭和20年の後半が欠けているのが惜しまれますが、やむをえない事情があったのでしょう。内容は個人的な視野の範囲に限られてはいるものの、近代から現代のはざまを生き抜いてきた一市井人の記録としての歴史的価値は、今後より明確になってゆくと思われます。閲覧は写真複写版をご利用ください。

(請求記号:CE1011)



坂井氏日記

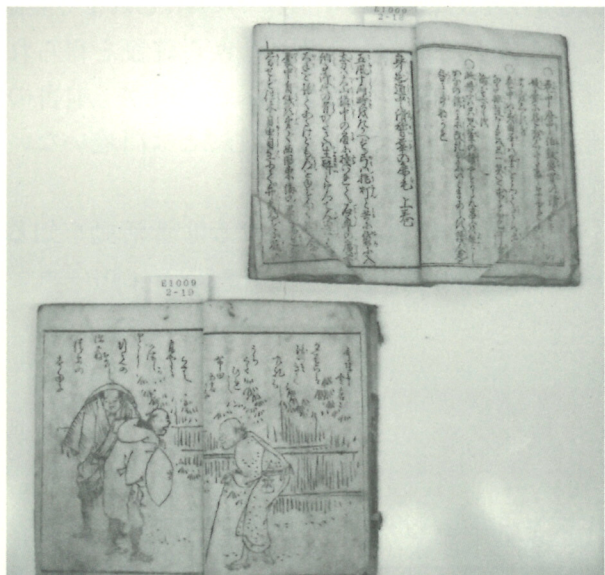
明治・大正時代の一般生活を垣間見る

西蒲原郡角田浜村大越家文書ほか

現新潟市西蒲区。165点の半分は自家経営に関する証文や金銭受領書ですが、江戸時代の書籍が40点ほどあり、明治になっても読み継がれている様子うかがえます。そろってはいませんが、「甲府道中華の鹿毛」や「身延道中滑稽華の

鹿毛」(どちらも十返舎一九の作)は空想の旅を楽しんだのではないかと思います。

(請求記号:E1009)



西蒲原郡角田浜村大越家文書
「身延道中滑稽華の鹿毛」

村松藩領下田地域の肝煎の一例を知る

南蒲原郡飯田村小柳家文書

現三条市。村の草創期から続く小柳家には、時代と社会的立場の変遷を反映する文書が連綿と伝わってきました。内容はいくつかの文書群に分かれますが、現在閲覧可能になっているのは村松藩領飯田村肝煎時代の文書です。

村松藩では村の代表者を肝煎と呼んでいました。他領でいう庄屋や名主に相当します。飯田村は江戸時代初期から明治まで一貫して村松藩領で、小柳家が肝煎を代々世襲して来ました。村の足跡を語る古文書は寛文3年(1663)を最古に521点、江戸時代後期には一時期大庄屋を兼ねたこともありました。

(請求記号:E1001)

文政三条地震の惨禍を伝える

瞽女口説地震の身の上(複写)

原本は、横半帳11丁で1冊完。1丁表に「瞽女口説地震の身の上 泣和津地声太夫 板元きま、やひも右衛門」と書し、刊本の写しのような姿をなぞらえています。1丁裏や10、11丁には筆写し

て所蔵したと思われる人の筆跡があり、それによると中魚沼郡伊達村(現十日町市)の人であったことがわかります。

口説は、文政11年11月12日(1828年12月18日)早朝三条町(現三条市)直下を震源とする大地震の悲惨な被災状況を始め、後半は身分や立場をないがしろにして私利をむさぼる者が目に余る政治・社会の弛緩を批判する内容となっています。瞽女が節をつけてうたっている感じが感じられるように、七言に区切った書き方がなされています。全体の長さや表現のしかたは何通りかあるようで、口頭または筆記によって伝えられていくうちに次第に内容が増していったものと考えられますが、写本の系譜ははっきりしていないようです。

なお、筆跡はひらがなが卓越して熟語部分の多くにかなルビがふられて読みやすく、1ページ8行に書きそろえてあって終始筆勢は変わらず、読ませるのみならず手習い手本としての使い道も兼ねたもののようにも見られそうです。

(請求記号:CKB-シク)

当館ではほかに2種類が閲覧可能です。

(請求記号同じ)

良寛研究上の有力資料

発句類題越後獅子(複写)

原本は、和とじ小本、一・二2冊そろい。一は序文(天保3年)と凡例2丁、人名録3丁、本文44丁。二は本文34丁、跋文(青光有月書、天保3年秋)2丁。

六合庵万里編集、鷗斎北洋及び方壺宇弘の校合により、故人57名と現存276名の計333名の発句(俳句)を収録しています。刊記なく出版地も不明ですが、編集の拠点が見附町(現見附市)であることは明瞭で、六合庵万里を中心とする俳諧活動の中から生じたものです。

実は、本書の完全にそろった存在はこれまで全く知られていませんでした。『国書総目録』(岩波書店、昭和38~51年刊)にも項目がない幻の本だったのですが、昨夏県外の所蔵者から情報提供があって、今回初めて確認ができたのです。

巻頭の凡例に、「新古にわたりて美濃風、伊勢風の境を分たず」、作者の「貴賤巧拙を論ぜず」

と趣旨が記してあって、越後国内各地から流派や地域にこだわらず広く収集・募集した一大名鑑となっていることが特徴です。

さらに、本書には大きな特徴があって、それは故人の中にあの良寛禅師(天保2年没)の名が見え、よく知られている、

「秋^{びより}日和^{すずめ}千羽雀の羽音かな」

「焚^{たく}ほどは風が持て来る落葉かな」

の2首が採録されているのです。

序文、跋文が天保3年とあるので、良寛の没後1年強であり、直接当人からではなかったにせよ、かなり信頼できる筋からの収集と考えてよいのではないかと、思われます。というのも、これまで長くこの2首は良寛作といわれながら確証を得られず、研究者の間で論議を呼んでいました。本書の発見によって大きく研究が進むことは間違いありませんでしょう。

また、同時代の各地における俳諧活動を知る糸口としても好資料です。(請求記号:CPR-ホエ)

平成22年度 これからの古文書関連講座

初心者向け講座…5回連続のくずし字の解説を中心にした講座です。

講座名	期日	会場	定員	講師	申込開始日
古文書初級解説講座 (秋季)	10月1日～29日 (毎金曜日)	文書館ホール	150名	本井晴信 副館長	8月3日(火)

中級者向け講座…1回完結の歴史講座です。(3月のみ2回完結)

講座名	期日	会場	定員	講師	申込開始日
9月古文書専門学習会	9月25日(土)	文書館ホール	150名	田辺芳春 主任文書研究員	8月24日(火)
12月古文書専門学習会	12月18日(土)	文書館ホール	150名	笠井希予志 嘱託員	11月16日(火)
3月古文書専門学習会	3月12日(土) 3月13日(日)	文書館ホール	150名	菅瀬亮司 嘱託員	2月8日(火)



県立文書館は、県立図書館と県立生涯学習推進センターとの複合施設です。JR新潟駅の南口または万代口からバスが出ています。南口より「女池愛宕行き」または「市民病院行き」、万代口より「女池愛宕行き」に乗り、「野球場・科学館前」で下車して徒歩8分です。

◎お願い

御家庭に眠っている江戸時代や明治の文書・写真・本・雑誌などがありましたら、県立文書館に御寄贈ください。また、大切にされている古文書等の保存方法についての心配事がありましたら、県立文書館に御相談ください。

編集・発行 新潟県立文書館

〒950-8602 新潟市中央区女池南3丁目1番2号
TEL. 025-284-6011 FAX. 025-284-8737
URL. <http://www.lalanet.gr.jp/npa/>
E-mail. archives@mail.lalanet.gr.jp